

# PRESS RELEASE



2022年10月31日

報道機関各位

一般財団法人冬季産業再生機構

## 2022-2023シーズンより本格活動を開始！

一般財団法人冬季産業再生機構（代表理事；皆川賢太郎）はこの度、2022-2023シーズンにおける弊財団の活動につきまして発表をさせていただきました。

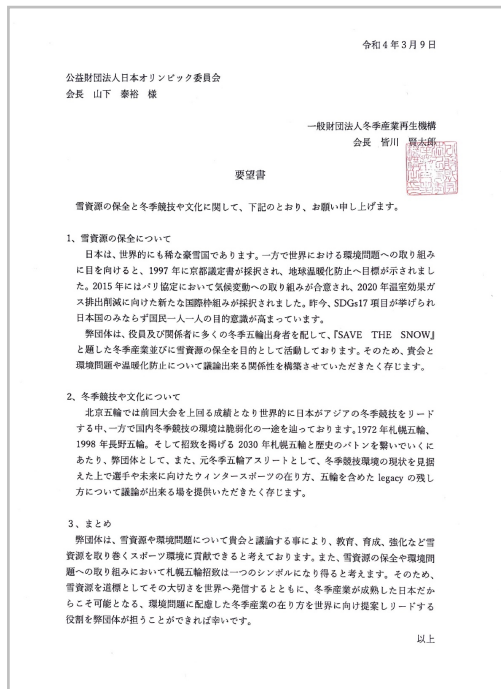
弊財団では雪資源保全のための活動、SAVE THE SNOW PROJECTを立ち上げ、以下の3つの活動を実施して参ります。

- ① SAVE THE SNOW ~be active~プロジェクトの活動報告  
JOCアスリート委員会と共に進める、環境保全に関する意見交換会や植樹などのプロジェクト活動です。
- ② 絵本「ゆきゆきだいすき」の出版  
弊財団のアンバサダーを務めます、元モーグル日本代表上村愛子が描くキャラクター「AIKOちゃん」が伝える、地球温暖化と雪について子どもたちと考えるための絵本を11月9日小学館から出版します。
- ③ SAVE THE SNOW CONCERTの開催  
12月16日(金)・17日(土)の2日間、音楽FAN/スキーマー・スノーボーダー1,500人にむけ、松任谷正隆 総合演出、松任谷由実・平原綾香 出演による、冬の始まりを告げるコンサートを岩手県安比高原リゾートにおいて開催します。

お問合せ・連絡先 一般財団法人冬季産業再生機構 事務局 石川  
Mail : [info@savethesnow.jp](mailto:info@savethesnow.jp) TEL : 080-1390-6645  
財団URL : <https://twira.jp/>

# 地球温暖化×環境問題 SAVE THE SNOW PROJECTS 活動報告

## 1、冬季産業再生機構 JOCアスリート委員会 「SAVE THE SNOW ~be active~ プロジェクト」



2022年3月9日 雪資源の保全が冬季競技にとっても重要であることから、地球温暖化や気候変動に伴う雪資源保全を含めたSDGsなどの環境問題や、冬季競技の環境を含めたウィンタースポーツの在り方について議論する場を設けることを求める要望書を公益財団法人日本オリンピック委員会へ提出



### ◆活動概要：

JOCアスリート委員会が(一財)冬季産業再生機構と連携し、環境保全およびSDGs活動の啓発活動を実施・実践する。

### ◆発足経緯：

(一財)冬季産業再生機構が目指す環境保全活動の方向性が、JOCオリンピック・ムーブメント事業推進の一環である環境保全およびSDGs活動について共通目的があり、その相乗効果を期待し、当機構と共同プロジェクトを発足。

### ◆活動ゴール：

中長期的には、この連携を通じてIOC定める「オリンピック・アジェンダ2020+」内で掲げるSDGsの推進、2030年札幌オリンピックの招致活動に寄与していく。

### JOCアスリート委員会中心メンバー

松田丈志、伊藤華英、小口貴久、高橋成美、寺尾悟



令和4年度JOCアスリート委員会（15名）体制

委員長：松田丈志

副委員長：高橋成美、羽根田卓也

委員：荒木絵里香、伊藤華英、太田雄貴

小口貴久、高平慎士、竹内智香

田中琴乃、寺尾悟、土井レミイ杏利

戸邊直人、三井梨紗子、三宅宏実

### 活動実績

3月9日：

冬季産業再生機構からJOC山下会長宛に要望書提出

3月23日：

令和3年度第9回JOC理事会にて報告

4月25日：

JOCアスリート委員会と意見交換会、当プロジェクト発足

6月9日：

「SAVE THE SNOW ~be active~ vol.1」

東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会を交えた意見交換会

9月16日：

「SAVE THE SNOW ~be active~ vol.2」

北海道大学山中教授をはじめ、有識者、JOCアスリート委員等を招いて環境保全をテーマに議論

10月20日：

スキージャンプ原田氏を招き札幌No Mapsカンファレンスにて「オリンピックが見据える冬季産業の未来とは」をテーマにトークセッションを開催

10月21日：

北海道美瑛町にて植林体験に参加





## 2、絵本「ゆきゆきだいすき」の出版

### ◆制作概要：

100年後も子供達が楽しく豊かに雪を楽しめるよう、雪資源保全活動「SAVE THE SNOW PROJECTS」を通じて環境問題に取り組み、雪の語り部を育てていくための「絵本プロジェクト」を始動。

我々の想いにご賛同頂いた大手出版社「小学館」から絵本を出版し、また、SUNTORY、PARCO、ジャニーズ事務所CI、SUZUKIなどの広告を手掛ける小杉幸一氏がアートディレクションを行う。絵本の中では、元モーグル日本代表で弊団体のアンバサダーでもある上村愛子氏が生み出したキャラクター「AIKOちゃん」が雪の美しさや雪資源の大切さを子供たちにわかりやすく伝えていく。

### 前半ページ

絵本「ゆきゆきだいすき」



絵  
上村 愛子



作  
八尾 良太郎



デザイン  
小杉 幸一

### 後半ページ

「アスリートが見てきた世界の今」、「雪の研究者からの報告」



ストーリー/写真提供  
藤森 由香



データ監修  
山中 康裕



データ監修  
中村 一樹

## 書籍情報



え : うえむら あいこ  
さ く : やお りょうたろう  
でざいん : こすぎ こういち

発売日 : 2022年11月9日  
定 価 : 1,650円 (10%税込・本体価格1,500円)  
出 版 : 小学館

皆川 賢太郎 (全体監修) 藤森 由香 (写真提供)  
山中 康裕 (データ監修) 中村 一樹 (データ監修)



## 3、SAVE THE SNOW CONCERTの開催

## ◆概要：

SAVE THE SNOW PROJECTSの新たな文化造りの一つとして、年に1度、冬の始まりを一緒に楽しむ企画を構築しました。音楽FAN/スキーマー・スノーボーダー 述べ1,500名へむけて、環境問題や雪資源をテーマに、雪や自然と親和性を感じるアーティスト達による特別なコンサートを開催します。第1回目となる今回は、財団にて出版した絵本「ゆきゆきだいすき」をモチーフに、総合演出「松任谷正隆」の繰り出す世界観をお届けします。

- 【演出】松任谷正隆  
 【出演】松任谷由実、平原綾香  
 【日時】2022年12月16日（金）18:00開場／19:00開演  
 17日（土）17:00開場／18:00開演  
 【料金】8,888円（税込）全席指定  
 ※6歳未満のお子様はご入場できません。  
 【会場】安比高原スキー場 安比プラザ 特設フロア  
 〒028-7395 岩手県八幡平市安比高原 1 1 7 - 1  
 【後援】八幡平市



総合演出:松任谷正隆

## ARTIST



松任谷 由実



平原 綾香

## チケット販売

## 【一般販売】

11月12日（土）～

## 【受付】

チケットのみ  
 チケットぴあ

<https://w.pia.jp/t/savethesnowconcert/>

JRツアー

キャピタルヴィレッジWEB受付

## 【お問合せ】

キャピタルヴィレッジ  
 Tel.03-3478-9999  
 （平日12:00～17:00）

<https://www.capital-village.co.jp/>


SAVE  
THE  
SNOW  
Concert

冬のはじまりを祝う夜  
 2022.12.16<sup>fri</sup>/17<sup>sat</sup>

会場：安比高原スキー場 安比プラザ 特設フロア  
 〒028-7395 岩手県八幡平市安比高原 117-1

APPI  
 Snow Mountain Resort

松任谷 由実  
Yumi Matsuyama平原 綾香  
Ayaka Hiraharaあいごちゃん  
絵本「ゆきゆきだいすき」より

12/16 18:00 開場 19:00 開演  
 12/17 17:00 開場 18:00 開演

Ticket  
 8,888円（税込）全席指定

主催：一般財団法人冬季産業再生機構  
 後援：八幡平市

お問合せ：キャピタルヴィレッジ  
 Tel.03-3478-9999 受付時間：12月12日～17日  
<https://www.capital-village.co.jp/>

詳細は  
 こちらから



# 一般財団法人 冬季産業再生機構 概要

団体名：一般財団法人 冬季産業再生機構  
会 長：皆川賢太郎  
設 立：令和3年6月16日  
所在地：東京都港区西麻布4-21-2


ロゴ

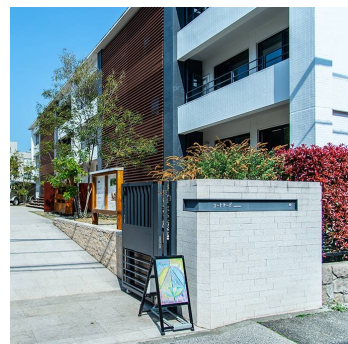


名刺



FSC®  
「適切に管理された森林」  
に由来する製品であると  
保証された環境配慮型の商品

オフィス コートヤードHIROO 



## 事業目的

(目的)

第3条

当法人は、地球環境に配慮するとともに我が国におけるスキー場、冬季リゾート施設、観光業等の冬季産業（以下「冬季産業」という）を再生・活性化することにより、持続可能な冬季産業の発展並びに循環型社会の実現に寄与することを目的とする。

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地球温暖化、森林伐採等の環境問題に関する調査・研究
- (2) 植林、植樹等緑化に関する調査・研究
- (3) 訪日外国人に関する調査・研究並びに観光先進国実現に向けた戦略立案
- (4) まちづくり事業、地域活性化事業、環境計画等に関する調査研究及びこれらの戦略立案
- (5) 国有地、雪資源等の資源活用方法の調査・研究
- (6) 冬季産業に関する調査・研究並びに冬季産業の再生・活性化に向けた戦略立案
- (7) 冬季産業に関する人材の育成・指導
- (8) 冬季産業に纏わる再生エネルギーについての調査・研究
- (9) 前各号に関するイベントの企画、運営、広告、宣伝、広報、出版物の制作及び販売
- (10) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

# 人員構成

## 代表理事



皆川 賢太郎  
(みながわ けんたろう)

株式会社HEIDI代表取締役社長 / 一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会 理事 / 公益財団法人 コーセー小林スポーツ財団 理事 / 公益財団法人 日本オリンピック委員会 選手強化本部 テクノロジー&データWG リーダー / 元アルペンスキー日本代表 / 元公益財団法人全日本スキー連盟 常務理事・競技本部長  
1977年5月17日生まれ  
1998年長野オリンピックを皮切りに、2002年ソルトレークシティオリンピック、2006年トリノオリンピック、2010年バンクーバーオリンピックと4大会連続日本代表として出場。2014年、アルペンスキーを引退。2015年、全日本スキー連盟理事に就任。2016年、全日本スキー連盟常務理事、アルペンスキー2016W杯実行委員会副委員長に就任。2017年、全日本スキー連盟競技本部長に就任。日本オリンピック委員会の選手強化常任委員に就任。2018年、アルペンスキー2020W杯実行委員会副委員長に就任。2019年、ユニバーシアード冬季大会日本選手団団長に就任。2020年、全日本スキー連盟常務理事、競技本部長を退任。ウィングススポーツ産業全体の発展に尽力している。

## 専務理事



青井 茂  
(あおい しげ)

株式会社アトム 代表取締役社長 / コートヤードHIROO オーナー  
1977年6月8日生まれ  
慶義塾大学経済学部卒業。卒業後カリフォルニア州サンタクルーズのO'neill社にて、創業者のジャック・オニールが組成したSea OdysseyProgramに従事。帰国後、デロイト・トーマツ・コンサルティングにて会計業務を基礎とした大企業の分社化や特殊法人の民営化プロジェクト等を担当した。その後、産業再生機構にて企業の再生案件に従事。日本国内の各所にある事業所に、各企業の従業員と共に働き、そのなかの会話を通じて、再生に向けての課題を顕在化させ、企業の経営陣と共にPDCAを実施した。2011年に代表取締役副社長、2019年代表取締役社長に就任。

## 理事



太田 雄貴  
(おた ゆうき)

国際フencing連盟 副会長 / 一般財団法人 日本アーバンスポーツ支援協議会 副会長 / 一般社団法人 日本eスポーツ連合 特別顧問 / 公益財団法人 日本オリンピック委員会 オリンピック・ムーブメント専門部会 副部長 / 公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 アリート委員会 委員 / 一般社団法人日本ハンドボールリーグ 理事 / WIN3 株式会社 代表取締役 / 株式会社マイネット 社外取締役 / 元公益財団法人日本フencing協会 会長  
1985年11月25日生まれ  
小学3年生からフencingを始め、高校時代にはインターハイ3連覇を達成。日本代表として多くの国際大会に出場しアテネオリンピックで9位、北京オリンピックでは日本フencing史上初となる銀メダルを獲得。2012年のロンドンオリンピックにおいても、フルレ団体で銀メダルを獲得した。2015年には世界選手権で、日本人初の金メダルを獲得した。2016年に現役引退後もフencingの普及に取り組み、現在は国際フencing連盟の副会長を務める。



藤森 由香  
(ふじもり ゆか)

プロスノーボーダー (冬季オリンピック4大会連続代表出場)  
1986年6月11日生まれ  
長和町立長門小学校、依田窪国中学校、東海大三高、JWSC全日本ウィングススポーツ専門学校卒業。長和町スノーパーク、チームJWSCを経て、現在はチームアルビレックス新潟所属。マネジメントはエイベックス・スポーツが行っている。2015年1月にスノーボードクロスからスノーボードに転向。2017年11月に2018年の平昌オリンピックを最後に第一線を退き、プロのスノーボーダーになると発表。2019年1月にエックゲームズに再び挑んだ。  
06年 トリノオリンピック代表 7位 / 10年 バンクーバーオリンピック代表 / 11年 オーストラリアワールドカップ 初戦3位 / 12-13年 全日本選手権 優勝 / 12-13年 ワールドカップ キング10位 / 14年 WINTER X GAMES 4位 / ソチオリンピック代表 / 13-14年 ワールドカップ ランキング4位 / 15年 世界選手権11位 ※スノーボードクロスからスノーボードスタイルに種目転向 / 15年 Burton European Open 7位 / 18年 平昌オリンピック ビッグエア7位、スノーボードスタイル9位

## 評議員



北野 貴裕  
(きたの たかひろ)

北野建設株式会社 代表取締役会長兼社長 / Sakura Hanoi Plaza Investment Co., Ltd. MANAGING DIRECTOR / 川中嶋土地開発株式会社 代表取締役社長 / 株式会社アサヒエージェンシー 代表取締役会長 / 株式会社長野放送 取締役相談役 / 株式会社キタノプロパティ 代表取締役社長 / 株式会社ライフプラス 代表取締役会長 / 公益財団法人大崎企業スポーツ事業研究助成財団 理事 / 一般社団法人長野県建設業協会 理事 / 一般社団法人日本建築業連合会 理事 / 公益財団法人日本ホビー・リーグ・スケルトン連盟 代表理事 / 一般社団法人日本ホビー協会 代表理事兼会長 / 在京ソロモン諸島を管轄する名誉領事 / 公益財団法人日本オリンピック委員会 評議員 / 公益財団法人長野県スキー連盟 会長 / 元公益財団法人全日本スキー連盟 会長  
1963年10月6日生まれ  
平成3年北野建設株式会社社長に就任。平成4年同取締役に就任。平成6年同常務取締役に就任。平成10年同専務取締役に就任。平成15年同代表取締役副社長に就任。平成19年同代表取締役会長兼社長 執行役員社長に就任。様々な競技の普及振興に寄与している。



中島 周  
(なかしま しゅう)

キョービー株式会社 取締役会長 / 株式会社中島商店代表取締役社長  
1959年生まれ  
83年早稲田大学政治経済学部卒業。89年米コーネル大学ジョンソン経営大学院修士課程修了。83年株式会社日本興業銀行入行。1993年株式会社中島商店、1997年キョービー株式会社入社。現在は、株式会社中島商店代表取締役社長、キョービー株式会社取締役代表コンプライアンスおよびブランド担当。また、公益法人の理事・評議員を複数務めている。



南雲 二郎  
(なぐも じろう)

八海醸造株式会社 代表取締役  
1959年1月生まれ  
昭和58年八海醸造株式会社に入社。平成9年同代表取締役に就任。  
平成13年株式会社八海山代表取締役に就任。  
清酒八海山をはじめ、ライディーンビール、ウイスキー・ジン、その他アルコール商品の製造・販売を行う。ノンアルコール商品では「麹だけでつくったあまさけ」の製造・販売。魚沼の暮らしや雪国の文化を体験できる施設「魚沼の里」も運営している。

## 監事



野田 謙二  
(のだけんじ)

野田総合法律事務所 所長  
平成2年4月弁護士登録(42期)。証券会社、電鉄会社、総合商社、不動産会社、建設会社等の上場企業の訴訟・交渉を中心とする企業法務案件を専門に取り扱う。全日本スキー連盟の顧問として規約改定等に取り組んだ。スキーを趣味とし、業界に知人も多く、その縁で当財団の運営につき法務面で協力頂くこととなる。

## アンバサダー



上村 愛子  
(うえむら あいこ)

元フリースタイルスキー・モーグル日本代表  
1979年12月生まれ  
アルペンスキーからモーグルに転向して4年。初出場した長野五輪で一躍注目を集め、日本のエースとして常にメダルを期待される存在となる。  
世界トップ選手のひとつとして、日本勢の成績を数々立て替えた。  
ワールドカップ種目別年間優勝、世界選手権優勝を果たし「No.1」の称号を手に入れる。残る五輪のタイトルを賭けて通算5回の出場すべて入賞を果たすも、悲願を達成することは叶わなかった。3Dエア(コアスクリュー720)を最初に完成させ、カービングターンを武器とするなど、世界の女子モーグル界における技術の先駆者としても知られる。現在はスキーフリースタイル普及のため、次世代の選手育成にも力を注いでいる。



本村 健太  
(もとむら けんた)

岩手大学 教授 博士(芸術学)  
1996年 岩手大学 教育学部 講師  
2000年 ベルリン 自由大学(ドイツ) 文部省在外研究員  
2009年 岩手大学 教育学部 教授  
2016年 岩手大学 人文社会科学部 教授  
1968年生まれ  
芸術教育・総合芸術、「芸術と技術の融合」などをテーマに、近代デザインの基礎を築いたバウハウスの研究を行った。また、この理論研究に並行して、基礎造形(ベーシックデザイン)から映像・アニメーションまで多岐に渡る表現を追求してきた。バウハウスの理論研究で学んだ時代精神と実験的精神を糧にして、スペキュラティブ(思弁的)なデザインやデザイン思考(デザインシンキング)によって、地域社会のよりよい未来を描くことを試みている。



山中 康裕  
(やまなか やすひろ)

北海道大学 地球環境科学研究所 統合環境科学部門 実践・地球環境科学分野 教授  
1991年10月 - 1998年03月 東京大学気候システム研究センター 海洋モデリング部門 助手  
1997年04月 - 1998年03月 米国プリンストン大学大気海洋プログラム Visiting Researcher  
2007年11月 - 2008年02月 英国イーストアングリア大学環境科学部 Visiting fellow  
1998年04月 - 2010年09月 北海道大学大学院地球環境科学研究科 助教授/准教授  
2010年10月 - 現在 北海道大学大学院地球環境科学研究所 教授



中村 一樹  
(なかむら かずき)

国立研究開発法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長  
1995年 日本気象協会 北海道本部勤務  
2000年 同 北海道本部水文調査課長代理  
2003年 同 北海道支社応用気象課長  
2006年 同 北海道支社気象情報課長  
2009年 同 北海道支社情報事業課課長  
2009年 北海道大学大学院地球環境科学研究所 環境教育研究交流推進室GOE上級コーディネーター  
2013年 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 新設雪氷環境実験所  
2016年 同 気象災害軽減(ハザード)センター 長 兼任・研究推進室長(兼)  
2020年 同 イノベーション共創本部 共創推進室長(兼)  
2022年 同 雪氷防災研究部門 部門長(雪氷防災研究センター センター長)  
現在、日本雪氷学会理事、中越防災安全推進機構理事、長門市防災委員などを務める。

# SAVE THE SNOW カラーに込めた想い

2030年までに世界中で達成すべき17の社会課題に対し、冬季産業観点からも達成に貢献するという意思を込めました。“雪の降る地球”を実現するとともに“雪と共存する人類”がより幸せな生活を送れるよう、活動を行っていきたくと考えています。（雪山から貧困を考える。スノースポーツで生涯健康に貢献する。スキー学校でジェンダー課題や教育課題に貢献するなど…）17の課題の中で、特に注力すべき7項目の色で雪の結晶を彩りました。7つのカラーを雪の降るために必要な『太陽』『水』『緑』にたとえ、SEVEN SNOW COLORSとして、SNOWの『O』を表現しています。そして、その他10項目の色も「SAVE THE SNOW」の文字の色として使用しています。



## SAVE THE SNOW PROJECT にご賛同予定の企業

# SAVE THE SNOW



### 協賛

北野建設株式会社、八海醸造株式会社



未来を育てる人がいる



### 締結予定

株式会社コーセー（雪肌精）、石屋製菓株式会社（白い恋人）他



白い恋人